

平成17年9月6日大水害

あれから10年

>13<

教訓は生かせるか…

杉尾 哲氏基調講演
平成17年台風14号大水害の教訓



台風14号のとき、耳川では塚原ダムから500m下流で大きな崖崩れが起こって川がせき止められました。水が一気にたまつて、天然ダムといいますが、それを越えてウワツと流れ出たという現象です。

土砂崩れが起こってから、水がたまるまで50分もかからなかったと言われますから、ものすごく危険な状態だったんですが、あま

り知らされていないということが問題です。

この場合には、たまたま500m上流にダムがあったので大きな水はたまるなかったのですが、耳川であの

くらいだったからと考えるのは大間違いなんです。結局、天然ダムの上流にどのくらい水がたまつたかということによって被害が決まるんです。江戸時代に長野で、地震で川がせき止まら

り知らされていないことが問題です。この場合には、たまたま500m上流にダムがあったので大きな水はたまるなかったのですが、耳川であの

のときは天然ダムの高さは耳川の天然ダムの高さともあまり変わりませんでした。500m上流に塚原ダムがなかったら、とんでもない状況が耳川で起こっていたということが分かります。

と、宮崎県内では例えば、耳川とか小丸川とか一ツ瀬川の上流では、一番危ない箇所が本川沿いにあるという



耳川の氾濫で壊滅的被害となった諸塚村中心部。上流には天然ダムもできた（平成17年9月7日）

崖崩れ、耳川をせき止める 知らされていないなかったが、危険な状態に



住宅付近まで迫った耳川の洪水（平成17年9月6日午後2時30分ごろ、日向市幸脇）

ことが分かりました。そうした所ではどういう被害が起こるかというシミュレーションをちゃんと、浸水想定区域はどんな範囲なのかということを行

政はちゃんと作製して公表してもらいたいなと思います。

天然ダムの崩壊というのはいきなり起こりますので、ほかの県、きたいと思います。

防災・減災を考える
シンポジウムから――